

平成30年6月23日 藤沢市空手道連盟事務局

「藤沢市民総合体育大会継承大会 第49回藤沢市空手道選手権大会」開催要綱及び細則

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より本連盟の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて「藤沢市民総合体育大会継承大会 第49回藤沢市空手道選手権大会」を下記の通り開催致しますので、ご案内申し上げます。

また、開催に先立ち、後述内容にて代表者会議を行いますので、ご参集頂けますようお願い致します。

敬具

記

【大会要綱】

1. 大会名

藤沢市民総合体育大会継承大会 第49回藤沢市空手道選手権大会

2. 主催

藤沢市教育委員会 藤沢市体育協会

3. 開催時期

平成30年10月21日（日）午前9：00集合 午前9：30開
会

※午前8：30体育館開館、役員は午前8：30集合、招待審判の方は午前9：00集合。

4. 会場

秩父宮記念体育館 メインアリーナ 練習場所 サブ アリーナ

藤沢市鵠沼東8番2号 TEL. 0466-22-5335 FAX. 0466-28-5749

5. 大会参加資格 以下のいずれかに該当する方、以下の該当者以外を含むエキシビションに参加する障がい者 藤沢市在住、在勤、在学、在道場

6. 大会役員

大会名誉委員長	木村 英勇
大会委員長	杉山 保
大会副委員長	滝内 一夫・鬼沢 義行
大会顧問（順不同）	鈴木 恒夫・西谷 賢・藤井 裕久・井上 裕介・山下 普士
大会実行委員長	坂尻 茂
大会副実行委員長	関野 治夫
大会監査長	杉山 保
大会審判長	木村 研治
大会副審判長	木村 久乃・小屋敷 律子
大会事務局長	山門 誉宗
大会事務局次長	滝内 洋子・荒木 慎太郎・板垣 紀恵

7. 競技方法及び種別

- ・全日本空手道連盟組手競技規定及び同形競技規定に準ずる。
- ・障がい者によるエキシビションの部を、内容をフリーとして設置する。
- ・各種目を実施する最低人数は、4名とする。

- ・幼年、小学1・2年生の選手は、背中に姓名をひらがなで書いた縦10cm 横20cm の白布を縫いつけて（または同 等のものを付けて）参加するものとする。
- ・シニアの部は、男子40歳以上、女子35歳以上とし一般の部と重複の参加は出来ない事とする。（但し、規定人数に満たない場合は、有段・有級に振り分けることがある。また、試合当日に該当年齢であれば良いとする。）

(1) 形の部

- ・フラッグ制とする。
- ・但し、昨年度の上位成績者をシード選手とし、代表者会議で組合せを修正するものとする。
- ・二人同時演武とする。赤青の順で形の呼称をし、主審の短笛の後に演部を開始する。但し、決勝のみ一人演武として、主審の短笛は省略する。
- ・形の全ての試合は、礼は斜め入りとする。
- ・競技内容は以下の通りとする。但し、中学生以上の種目で、登録人数が4名未満であった場合は、男・女を1種目にまとめる。（例えば、中学生女子の登録者数が3名で男子が5名の場合は、8名を中学生男・女として1種目とする。）

NO.	種 目	制 限
1	幼年男子	ピンアン、ヘイアン、ゲキサイ、タイキョク、ナイファンチ、テッキ（以下、「基本形」と言う。）を繰り返しても良い。但し、準々決勝以降は、それより前の形以外の基本形又は（公財）全日本空手道連盟第一若しくは第二指定形（以下「指定形」と言う。）に <u>変更しても良い</u> 。
2	幼年女子	〃
3	小学1年生男子	〃
4	小学1年生女子	〃
5	小学2年生男子	〃
6	小学2年生女子	〃
7	小学3年生男子	基本形を繰り返してもよい。但し、準々決勝以降は、それより前の形以外の基本形又は指定形に <u>変更しなくてはならない</u> 。なお、準々決勝から決勝まで同じ形で も良い。
8	小学3年生女子	〃
9	小学4年生男子	〃
10	小学4年生女子	〃
11	小学5年生男子	〃
12	小学5年生女子	〃
13	小学6年生男子	〃
14	小学6年生女子	〃
15	中学生男子	基本形又は指定形を繰り返しても良い。但し、準々決勝以降はそれより前の形以外の基本形、指定形又は他の自由形に <u>変更しなくてはならない</u> 。なお、準々決勝から決勝は同じ形でも良い。

16	中学生女子	〃
17	一般有級男子	〃
18	一般有級女子	〃
19	一般有段男子	指定形を繰り返しても良い。但し、準々決勝以降はそれより前の形以外の指定形又は他の自由形に変更しなくてはならない。なお、準々決勝から決勝は同じ形でも良い。
20	一般有段女子	〃
21	シニア（40 歳以上）男子	基本形又は指定形を繰り返しても良い。但し、準々決勝以降はそれより前の形以外の基本形、指定形又は他の自由形に変更しなくてはならない。なお、準々決勝から決勝は同じ形でも良い。
22	シニア（35 歳以上）女子	〃

（２） 組手の部

- ・トーナメント制で全てフルタイムとする。
- ・登録人数が４名未満であった場合は、当該種目は実施しないこととする。その際には、パンフレット上は、競技名の下に「実施しません。」と表記し種目として予定していたことを示すこととする。
- ・昨年度の上位成績者をシード選手とし、代表者会議で組合せを修正するものとする。
- ・安全具については以下の通りとする

全 般	・ 県大会及び錬成大会に準ずるものとする
拳サポーター	・ 全員が着用 ・ 全空連認定品に限る ・ 赤、青の他、白を認める ・ 青（赤）の選手が赤（青）の拳サポーターを着用すること（反対の色）は認めない。
ボディープロテクター	・ 一般有段男子は除き全員が着用（一般有段男子は任意） ・ 着用は内着が望ましいが外着も可とする
メンホー	・ 全員が着用 ・ 全空連認定品に限る ・ バージョン５以上が望ましい
セーフティーカップ	・ 中学生以上の男子は着用 ・ 小学３年生以上の男子は着用が望ましい ・ 着用は内着とする
インステップ及びシンガード	・ 着用は任意とする
マウスピース	・ 着用は任意とする

- ・ 団体競技は、以下の通りとする。

種目

小学１・２年生男子３名 同女子３名

小学３・４年生男子３名 同女子３名

小学５・６年生男子３名 同女子３名

中学生男子３名 同女子３名

各種目で各団体１チームとする。（登録は５名まで可とする。）監督又は選手が登録者の中から３名（以内）のメンバー表を回戦ごとにコート長に提出する。１分４本先取りとし、１回目は勝敗に関係なく大将

戦までおこない、その他は、全てのラウンドで先に2勝したら終了とする。但し、リーグ戦の場合は、全試合を行う。大会を盛り上げることから、時程は組手競技の最後とする。

出場が1チームの場合は、実施しない。その際には、パンフレット上は、競技名の下に「実施しません。」と表記し 種目として予定していたことを示すこととする。3チームの場合はリーグ戦、4チーム以上の場合はトーナメント戦とする。選手のモチベーションを考慮し、極力選手の変更は行わないが、チームの組直しの必要性もあり、当日の選手変更、交代も可能とする。

1回は、勝敗は決しても大将まで試合を行うこととする。3チーム参加の場合は、リーグ戦の方が、選手に対して公平感があるのでリーグ戦で行うこととする。選手は、プログラム上は全員選手として表記し、補欠表記はしない。団体を越えてチームを組むことはかまわないが、団体での登録は1チームとする。監督には、監督であることを明示するタグを準備し、配布する。

また、道場、学校などが違う者同士が組む、混成チームを認めるかは、代表者会議時に参加認定を行う。

- ・競技内容は以下の通りとする。

NO.	種 目	競技時間	勝 負
1	幼年男子	1 分	6 ポイント先取にて勝敗を決定
2	幼年女子	〃	〃
3	小学1年生 男子	〃	〃
4	小学1年生 女子	〃	〃
5	小学2年生 男子	〃	〃
6	小学2年生 女子	〃	〃
7	小学3年生 男子	〃	〃
8	小学3年生 女子	〃	〃
9	小学4年生 男子	〃	〃
10	小学4年生 女子	〃	〃
11	小学5年生 男子	〃	〃
12	小学5年生 女子	〃	〃
13	小学6年生 男子	〃	〃
14	小学6年生 女子	〃	〃
15	中学生 男子	1 分 3 0 秒	〃
16	中学生 女子	〃	〃
17	一般有級（高校生以上）女子	〃	〃
18	一般有段（高校生以上）女子	〃	〃
19	一般有級（高校生以上）男子	〃	〃
20	一般有段（高校生以上）男子	〃	〃
21	シニア（40 歳以上）男子	〃	〃

22	シニア（35 歳以上）女子	〃	〃
23	団体	1 分	4 ポイント先取りで勝敗を決定

（注）競技時間は、選手の参加状況により、大会当日までに変更することもある。

8. 表彰

- ・優勝、準優勝、第三位にメダルまたはトロフィー及び賞状、第五位に賞状を授与する。
- ・形・組手ともに三位決勝は行わず第三位を2名とする。
- ・形・組手ともに1種目の登録者が100名以上の場合は、16位までに第五位を授与する。登録者数が4名の場合は優勝のみとし、5名～8名の場合は、優勝、準優勝のみとする。登録者数が9名～16名の場合は、優勝、準優勝及び第三位（2名）とし、17名～99名では、更に第五位を授与することとする。
- ・団体組手競技においては、以下の通りとする。8チームの場合は、優勝、準優勝にメダルまたはトロフィー及び賞状、第三位に賞状、5チームから7チームの場合は、優勝、準優勝にメダルまたはトロフィー及び賞状、2チームから4チームの場合は、優勝にメダルまたはトロフィー及び賞状を授与する。メダルまたはトロフィー及び賞状は、当該団体にて出場した選手全員に授与する。但し、事前に購入数（授与人数）が確認できない為、試合後に人数を確認して追加購入し、団体経由で渡すこととする。
- ・敢闘賞は第五位とし、各表記も第五位とする。
- ・エキシビションに参加した障がい者には、全員に賞状を付与する。

以上